

あ

あーね

そっけなく聞こえる

ぐんまべん

共通語訳
なるほどね そっけなく聞こえる ぐんまべん



あ

あーね

共通語訳
あー、そうだね
あー、そうだよね

絵札解説
若者の何気ない会話の様子です。

あ


あーね

い

ぐんまは

いちごー!

共通語訳
いちごいちごー! ぐんまは いちごー!



い

いちご

共通語訳
いちご

絵札解説
みずみずしいおいしいそ
うな 莓の質感を細部
までこだわりました。

い

いちご

「あーね」は、「あー、そうだね」「あー、そうだよね」という返事を短くしたと考えられる相づちです。2005年ごろから前橋を中心とする群馬県の若い女性の間で盛んに使われるようになり、今では男性でも使用が認められます。当初は「あーねー」のように後半部分も長音にする（伸ばす）言い方もあったようです。いずれにしても、この表現に慣れていない地域の人やこの表現を使わない世代の人がこれを聞くと、「から返事」（聞いているようで聞いていないような返事）、あるいはあまり気乗りしていない返事のように聞こえてしまいますから注意が必要です。

ところで、この「あーね」は、群馬県で使われ始めたと考えられる2000年ごろ、時期を同じくして福岡県あたりでも若者の間で使われ始め、九州地域に広がっているという報告があります（二階堂2015）。「あーね」の語感などが現代の若者の気質に合っていたこと、福岡が発展し九州の移動が便利になったこととあいまって九州全域に広まったと考えられています。群馬県で使われ始めたことは福岡県と直接的な関わりがあるとは考えにくいですが、「あーね」という表現が現代の若者の気質に合っているということは共通しているのかもしれませんが。

このようにある限られた地域で若い世代を中心に使われる新しい方言を「新方言」と呼びます。方言というと田舎の山奥のお年寄りが使う古いことばというイメージがありますが、共通語や流行語を駆使する現代の若者の間でも方言は新たに生まれているのです。テレビやインターネットなどの普及によって方言がなくなってしまうと日本語の将来を憂える見方もありますが、この「あーね」のように、方言はまだまた新しい方言を生み出す活力を持っているのです。

群馬県の農産物としても有名な莓（いちご）ですが、この「イ・チ・ゴ」という発音が群馬県方言と言えます。莓の共通語アクセントは、「イ」が低く（弱く）て「チ・ゴ」が高く（強く）なる「いちご」です。ところが、群馬県内では語頭の「イ」が高く（強く）て「チ・ゴ」が低く（弱く）なる「いちご」と発音されることが多いようです。

アクセントとは、ある方言において、個々の単語ごとに社会的習慣として決まっている強弱・高低の配置のことです。例えば、共通語では、雨は「アメ」とアを高く、飴は「アメ」とメを高く発音し、区別しています。橋と箸もそうです。これがアクセントの違いです。

「ぐんま方言かるた」では、この方言のアクセントをかるたに取り入れました。他の方言かるたでは、方言的な単語（方言語彙）ばかりを取り上げることがほとんどです。その理由は、一般的には、方言という方言的な単語（方言語彙）のこととらえているからです。しかし、よく考えてみると〇〇弁という方言は、共通語と単語が異なるだけでなく、発音（音声、アクセント、イントネーションなど）や文法も異なります。方言学の世界では、そういった言葉の要素全て、つまりその土地の言語体系全体を方言ととらえます。このことを踏まえ、せっかく大学の方言研究の学生や研究者が方言かるたの制作に取り組むのであるから、方言の持つさまざまな側面を紹介しようと、方言アクセントを方言かるたに取り上げたのです。この方言かるたで遊ぶ子どもたちが、この方言かるたをきっかけに、方言あるいは日本語、言語は、語彙的なバラエティーだけではなくアクセントをはじめとするさまざまな要因によって成立していることを認知してほしいという願いを込めて、アクセントをかるたに取り入れたのです。

<秘密3の2> 絵札の制作の仕方

ここでは、「ぐんま方言かるた」の制作によって培ったノウハウから、学校や地域のかるた作りのために、自分たちで簡単にかるた制作ができる方法をご紹介します。

(1) テーマの設定

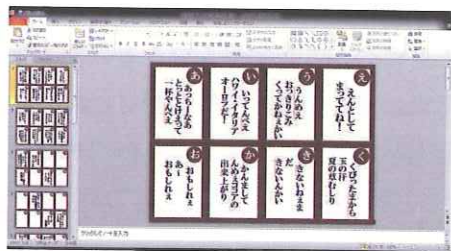
はじめにテーマを決めます。学校であれば、制作テーマは、地域方言かるた、クラスかるた、卒業生の思い出かるたなどが考えられます。地域の方々で作るものであれば、地域の特徴かるた、名所巡りかるたなど、地域の事情に合ったものがよいでしょう。

*ワンポイントアドバイス

学校の教材としてかるたづくりを考える際に重要なことは、児童生徒がどのような意義や目的を持って作成に当たるかを明確にすることです。児童生徒が、興味関心を示し最後まで集中力を持続できるような意義や目的を設定することが大切です。自分たちの制作テーマをしっかりと把握したうえで、最後にかるた取り大会を目標にすることも一つの方法です。

(2) 読み札制作

テーマに沿って読み札を考えます。複数で作成する場合、誰がどの札を担当するのか、あらかじめ決めておきます。また、内容が重複しないようにどの札がどのような内容なのかをあら



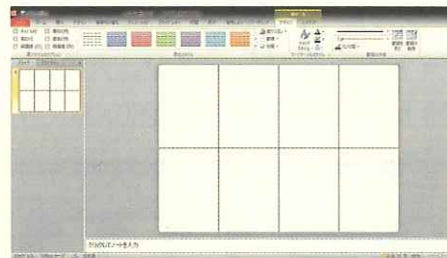
かじめ共通理解しておくといよいでしょう。

読み札の文章を考えたら、早速、パワーポイントで作成した読み札のフォーマットに入れてみましょう（「読み札・取り札のフォーマットの作り方」はこの下）。

読み札の作成については、佐藤2013aも参考にしてみてください。

*読み札・取り札のフォーマットの作り方

- ① パワーポイントの上端にある「デザイン」タブをクリックし、ページ設定からページサイズをA4にして、サイズを210×297mmにします。次に上端の「挿入」タブから表をクリックし、表(2行×4列)に合わせ、画面いっぱい拡大します。



- ② 表の枠線を基準にして、挿入→図形→□から図形を利用して細長い四角を作り枠線の周囲に貼っていきます。図形の書式は、塗りつぶしなしで「枠線の太さ」→「その他の線」の幅15ptに合わせます。

